

宮城教育大学教育復興支援センター 「ボランティア報告会・フォーラム」を開催しました

宮城教育大学教育復興支援センターは、10月26日（土）・27日（日）に開催された本学大学祭における教育復興支援の取り組みの一つとして、大学祭へのブース出展、「ボランティア報告会」及び、フォーラム「震災時の学校現場とこれからの防災教育」を開催した。

本センターは、宮城県を中心とした被災地域の中・長期的な視野での教育復興支援を目的に設置され、学習支援ボランティア、学生・教員研修等、様々な復興支援活動を学生とともに実施している。平成24年度には、活動が円滑に行われることを狙いとして、センターと学生との橋渡し役としての「教育復興支援ボランティア協力員」が組織され、内容によって9つに役割を分担化して活動している。今回のイベントはその一つである「大学祭班」のメンバーを中心に企画・運営された。

展示ブースでは、今年度実施した12の学習支援ボランティア等の活動の様子が描かれたパネルが展示され、協力員が来場者への展示資料の説明にあたった他、ボランティア活動や復興支援に関する懇談スペースなどを設け、来場者との交流を楽しんだ。

報告会では、テーマを【宮教が考える震災復興～学生ボランティアの復興支援～】とし、学内で特色ある取組をしている9団体から活動内容とその成果について報告があった。

フォーラムでは、テーマを【震災時の学校現場とこれからの防災教育】として、東日本大震災で被災された学校の状況や被災対応、その後の防災教育の現状を詳しく知る機会とした。[学校現場の被災対応]として、阿部達哉氏（石巻市立中里小学校教頭）、宮本静子氏（名取市立関上中学校教務主任）、[これからの防災教育]として、柴田新二氏（岩沼市立玉浦小学校主幹教諭）、高橋教義氏（仙台市立南吉成中学校校長）から講演をいただき、質疑応答を行った。講演の中では、災害時の情報収集の大切さや教員の役割、緊急時の備蓄やこころのケア、主体的な防災訓練や体験を伴う防災活動等の実践例と、学生ボランティア活動の重要性が強調された。

大学祭への参画を通して、学生同士が互いに協力し合い、ボランティア活動の意義や今後の防災教育への関心を高め、同時に、ボランティア活動を継続していくことの大切さを学ぶ大きな機会となった。

ボランティア協力員の説明に聞き入る来場者



ボランティア報告会の様子



防災教育についての講話を頂いた
岩沼市立玉浦小学校教諭柴田新二教諭

